

令和3年第2回 湖南省臨時教育委員会 会議録

1. 開催日時 令和3年8月27日(金) 午後1時から同1時38分まで

2. 開催場所 湖南省役所西庁舎 3階 大会議室

3. 会議に出席した委員

松 浦 加代子
伊 藤 真 昭
岩 城 見 一
古 川 美智子
平 松 彩

4. 会議に欠席した委員 なし

5. 会議に出席した事務局職員 7名

6. 会議を傍聴した人 2名

7. 会議案件

日程第1 議題第32号

令和4年度使用教科用図書の採択について

日程第2 協議事項

(1) その他

事務局

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、令和3年度第2回湖南省臨時教育委員会を開始させていただきます。

教育長

皆様、こんにちは。本日は傍聴の方も来ていただいています。お暑い中、ありがとうございます。

それでは、本日の会議ですが、教科用図書の第二採択地区での採択協議を終え、法律上、第二採択地区を構成する各市の教育委員会で最終決定を行うのがこの場でございます。湖南省も第二採択地区の協議会に私と教育委員代表として、そして保護者代表として日枝中学校のPTA会長さんに出ていただきました。

本日は、第二採択地区ではこの教科書が採択されたという報告ですので、

事前のこの場での意見交換会、それから調査委員会での調査を参考に、もう一度、審議し、決定していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

それでは、議題第32号、令和4年度使用教科用図書の採択について、学校教育課から説明をお願いします。

課長

(学校教育課)

委員の皆様におかれましては、事前の研究会等、ありがとうございました。公立の各小中学校で使用する教科用図書の採択については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定により、採択地区協議会が設置されます。採択地区協議会で行われた教科用図書選定の結果に基づき、各市町教育委員会で年度ごとに採択することになっております。

資料の25ページから26ページをご覧ください。こちらは本市が所属する教科用図書第二採択地区協議会の規程です。この教科用図書第二採択地区協議会は、草津市、栗東市、守山市、野洲市、甲賀市、湖南市の6市で構成されており、それぞれの教育長、教育委員代表、保護者代表を委員とする協議会です。この協議会において、第二採択地区内の各市立小中学校で使用する教科用図書が選定されます。

27ページをご覧ください。本年度協議委員の皆様です。

次に、本日議決を求めること、ならびに第二採択地区での教科用図書選定までの経緯と経過について、ご説明をいたします。

資料の28ページをご覧ください。今年度の経緯です。今年度は小中学校、特別支援学級、一般図書の採択替えに加えて、中学校教科用図書社会科、再申請分の採択替えについての協議を行います。現在までに協議会を2回、代表協議会を1回、幹事会を3回開催いたしました。併せて、5月下旬から6月にかけて、各市より選出された委員による調査委員会を開催し、厳正かつ精密な調査を行いました。当初予定しておりました7月29日の協議では、調査委員長より調査報告を受け、採択図書を選定し決議を行いました。

3ページ、4ページをご覧ください。小学校が通常学級で使用する教科書の一覧と理由です。

引き続き、5ページから8ページをご覧ください。特別支援学級で使用する教科書の一覧になっております。特別支援学級で使用する教科書は、学校教育法附則第9条の規定により、文部科学省著作本と検定本以外にも絵本などの一般図書からも選定することができます。知的障がい特別支援学級用は、今回社会科において「くらしとぎょうじのせいかつ図鑑」の1冊が新たに選定されました。

続いて、9ページから10ページをご覧ください。中学校が通常学級で使用する教科書の一覧と理由です。中学校特別支援学級の一覧は、11ページ

から13ページに掲載をしております。今回、外国語において「ARで英語が聞ける 英語もののなまえ絵じてん」、「えいごでワン・ツー・スリー！」の2冊が新たに選定されました。

なお、弱視学級は通常学級で採択された教科用図書の拡大版と、文部科学省著作本の点字版の教科用図書を選定いたしております。

では、ここからは協議会におきまして、調査委員長より報告されました調査結果の概要について、ご説明いたします。

まずは、小中学校特別支援学級一般図書の選定理由について、調査委員長からの調査報告の概要をお伝えいたします。小学校特別支援学級の一般図書につきましては、昨年度採択された社会科の図書のうち、1冊が供給不能になりましたので、資料の32ページにございます令和4年度使用教科用図書調査研究関係に基づいて、一般図書から補充できる図書の選定を中心に行いました。調査委員会では、各委員が学校や家庭から持ち寄ったり、図書館から選んだり、滋賀県教育委員会が示している選定に必要な資料に掲載されている一般図書など、併せて23冊の中から選定作業を進めました。

資料の46ページをご覧ください。その中で今回、選定されたのが、こちらにございます「チャイルドブックこども百科 ぐらしとぎょうじのせいかつ図鑑」という本になります。この本の調査研究の観点に関しましては、一つ目に観点1に照らしてみますと、実生活に則した内容で子どもの暮らしに直結する内容が網羅されており、知的学級の児童については、交流学級で社会科を学ぶ機会が多いが、この図書は特別支援学級で社会科を学ぶ児童の視点に合致しやすく、生活自立に向けた学習の一助となると考えました。

観点2につきましては、身近な生活にあるものを題材とするとともに、基本的な情報に限定して記載されておりますので、これらをきっかけにして小学校3年生、4年生の社会科学習に広げていくことができます。また、項目ごとにまとめられておりますので、順に学習することもできますし、必要なものをピックアップすることもできると考えました。

観点3に照らしましては、自分自身の生活体験と照らし合わせることで、自立に向けた学習につながり、また校外での体験的活動に先立つ学習に活用することができると思われました。

観点4につきましては、問いかけや投げかけに沿って自分でページを繰って調べることができ、まためあてを持たせる言葉や説明の言葉が平易であり、全ての漢字にルビが振っております。

観点5に関しましては、カラーの写真やイラスト、図版が多く、読みやすい文字の大きさであり、またハードカバーが丈夫な作りで、見開きで構成されており、探している情報を見つけやすいと思われました。

以上のような理由に基づき、今回小学校特別支援学級の一般図書として

「チャイルドブックこども百科 くらしとぎょうじのせいかつ図鑑」を選定いたしました。

続いて、中学校特別支援学級の一般図書の選定について、ご説明いたします。資料の52ページをご覧ください。

中学校の特別支援学級の一般図書につきましては、令和2年度使用教科用図書調査研究観点に基づいて、外国語において多様な障がいの程度に合わせて選択の幅が広がるように図書を追加することとし、一般図書から選定されていた4冊に加えて、一般図書23冊の候補の中から調査研究の観点に照らし合わせて選定を進めました。

その結果、「ARで英語が聞ける 英語もののなまえ絵じてん」と「えいごでワン・ツー・スリー！」の2冊を一般図書から選定いたしました。

それぞれの選定理由について説明いたします。

「ARで英語が聞ける 英語もののなまえ絵じてん」、こちらの図書は生徒自らが知りたい言葉を調べることができ、その言葉を使用して英会話を楽しもうとする意欲につながるものとなっております。特にAR、拡張現実アプリを使用することによって、音声表現を調べることができるため、目と耳から英語に親しむことに大変効果的です。

調査研究の観点に関しましては、観点1は、様々な日常生活の場面で使用される単語、会話文例が掲載されております。そのページで表現させたい目標が書かれているため、その単語と会話を組み合わせて会話文を作り、会話することを楽しめるような内容になっております。

また、日常生活でつぶやくような表現や動物の鳴き声の違いなどから、文化の違いへの関心が高まることにつながっていくことが期待できます。

観点2に関しまして、学習したい内容が見開きで示されており、1時間の授業で学習する内容への見通しが持ちやすくなっております。

また、内容は身近な日常生活の内容から始まり、地名、行事、気持ちの伝え方など、幅広い分野の言葉を知ることができる構成になっております。

観点3に関しましては、ゴシック体を使用し、どの生徒にも読みやすい配慮がされています。発音が片仮名で表記されており、アクセントの強弱も分かりやすくなっています。英会話の文例では、単語を入れ替える箇所が色付けされているため、活用しやすい工夫がされています。

観点4に関しましては、絵の色使いやデザインが美しく、場面のイメージがしやすいため、生徒がページを楽しみながら学習に向かうことができます。

また、デジタル機器を使用してイラストにカメラをかざすと、音声流れるようになっており、自分が聞きたい単語についてネイティブの発音を聞くことができるため、正しい発音を耳から確認することができます。

実際に1度、例えばこのページを少し学習したいということでございま

したら、子どもたちが持っているタブレットを、こちらのQRコードにかざします。すると、同じものがこのタブレット上に出てまいります。マイクの絵がついているところを実際に押してみますと、その読み方が表示され、実際にネイティブの発音で聞き取って学習することができるというような特徴がある図書になっています。

続いて、「えいごでワン・ツー・スリー!」、2冊目の図書になります。この図書は、英語の聞く、声に出す、書く、読むをバランスよく学習できる内容となっております。知的障がい学級に在籍する生徒の障がいの程度は多様ですが、基本的な学習内容から発展的な問題まで含まれており、全ての生徒が楽しく学ぶことができます。

調査研究の観点に関しましては、観点1は、身近に起こり得る場面設定で基本的な英語のやり取りが多く示されているため、生徒が英語に親しみ、意欲的に表現活動に取り組めるようになっております。

また、グローバルな登場人物のやり取りを通して、英語や外国への関心を育てる内容となっております。

観点2に関しましては、日常に則した内容になっており、ICT機器を活用して、楽しく音声聞けるようになっております。

また、音声のやり取りに加え話すことのやり取りや、書く活動も取り入れられ、バランスよく学習をすることができます。

観点3に関しましては、音声による表現、短い会話文での表記は分かりやすく、興味、関心が持てるような工夫がされています。ステップごとに見開きで構成されており、1時間の見通しが持ちやすくなっております。

観点4につきますは、カラーの挿絵は親しみやすく、中に会話文が散りばめられており、視覚的にイメージしやすくなっております。

こちらのほうにつきましても、使い方について少しご説明をさせていただきます。例えば、こちらのページ、自己紹介をするという内容のページになってございます。この教科書のページのところに、QRコードがありますので、生徒の持っているタブレットのカメラ機能を使ってこちらを読み取りますと、画面にページと同じ画面が出てまいります。出てまいりましたら、こちらでも音声を聞くことができますので、この教科書の中で話している内容のネイティブの発音を実際に聞きながら発音も学ぶことができます。この本のよいところは、聞くこと、声に出すことと、単語や文例を実際に鉛筆等を持って書くという作業も取り入れていることです。また読むことで、見開きの中でうまく作業を取り入れながら楽しく学習を進めることができるような教科書になっております。

以上のような理由に基づきまして、今回、中学校特別支援学級の一般図書としてこの2冊を選定いたしました。以上でございます。

教育長

はい、ありがとうございました。

特別支援学級の教科書は、一般図書からの採択も可能となっています。毎年、1年ずつ採択するのですが、廃版となっている図書もありますので、このような形で考えております。一人一台端末を配置してもらいましたので、その子の発達段階や、それに応じた教科用図書を選ぶということになっております。今年度は小学校の社会科で供給不能があったこと、それから中学校の外国語で障がいの程度に合わせて選択の幅が広がるようにということで、2冊の図書を選定していただきました。

ご意見、ご質問ございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。学びたくなりましたね。

それでは、選定に移ります。令和4年度使用教科用図書小学校特別支援学級一般図書と、令和4年度使用教科用図書中学校特別支援学級一般図書につきましては、報告どおり選定することにご異議はございませんか。

各委員

－ 全員異議なし －

教育長

それでは、全員異議なしということで、続いてお願いします。

課長

それでは、続きまして中学校教科用図書社会科、再申請分の採択替えの協議内容について、ご説明をいたします。

社会科につきましては、昨年度に社会科の3分野の教科書を分担して調査を行い、調査結果をまとめております。今回の調査は、自由社の歴史教科書が新しく検定に合格したことを受け、実施することといたしました。そのため、歴史的分野のみの調査を行っております。

まず、昨年度実施した調査の観点について検討をし、今回の調査においても昨年度の調査と同じく観点を6つといたしました。そのうち、1、内容の取扱いには県の採択観点を参考に、学習指導要領で生きる力を具体化する3本の柱に整理された①知識および技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力、人間性等といたしました。

また、第二採択地区の子どもたちにとって学習しやすいか、ならびに多様性の尊重、人権の尊重など第二採択地区として大切にしたいと示された諸課題についての工夫等を合わせて調査観点といたしております。

具体的な観点の内容については、資料の66ページをご覧ください。

そちらの様式の1に示しておりますのが調査の観点、6観点です。今回の調査で調査した教科書は8社ございました。観点別評価や研究結果につきましては、67ページから70ページにお示しをしております様式の2および72ページから79ページの様式の3をご参照ください。

まず、新学習指導要領に示された3つの観点、66ページ、先ほどの様式

の1の1、内容の扱いについて調査をしましたところ、政治、産業、社会、文化についての内容を時代ごとにバランスよく配置し、歴史の流れと各時代の特色が理解しやすいことや、思考判断を重視し、それについて表現させる工夫がなされていること、毎時間の振り返り、章の振り返りが整理しやすく、取り組みやすいことなどから東京書籍、帝国書院、日本文教出版の3社が総合的に優れていると判断いたしました。

一方で、教育出版は章末の振り返りについては、年表と語句挿入の統一感があるなど評価できる点もございますが、自分の言葉で時代を体感させる問いは説明的で知識偏重のため、やや高度過ぎると感じられました。

山川出版につきましては、個別の歴史的事情の定着を目指し、世界史との関連を強く意識した構成になっております。しかし、様々な観点から見て、全体的にかなり高度な内容となっており、多くの生徒にとって難解であると考えました。

育鵬社につきましては、多面的、多角的に考察する資料等を掲載して、思考判断を促す工夫などの特色が見られるものの、その学習箇所が少ないこと、また小学校での人物、エピソード学習との違いが感じられないという印象がございました。

学び社につきましては、各章の初めに課題意識を持つための問いかけを設定しておりますが、知識の定着を意図しただけの設問が多いことなどがマイナス評価となりました。

今回、新たに加わった自由社につきましては、コラムの、詳しく掘り下げた内容や章ごとの調べ学習の方法やまとめ方の提示など、興味を持って幅広い知識と教養を身につけられるようにされています。

しかし、中学生には難解な言葉が多く見られたり、生徒に考えさせたり、議論させたい内容が示されているため、思考を深める余地が少ないと感じられました。

なお、第二採択地区観点である多様性の尊重、人権尊重、環境等の現代的な諸課題については、全ての教科書で取扱いがあり、それぞれに工夫や配慮が見られました。

その中で山川出版は環境、防災についての記述が少なく、この観点ではマイナス評価となりました。

自由社につきましても、現代的な課題についてコラムなどで取り上げているテーマもございました。ただ、民衆の視点からの記述、表現が少ないことや、女性蔑視とも取れる表現があることはマイナス評価となりました。

次に、優秀とした3社のその他の特徴を上げますと、まず東京書籍は教科書としてのバランスが大変よく、学習指導要領が求めている3つの観点の学習内容箇所が一番多いと言えます。また、まとめに、ウェビングマップやクラゲチャートなどの多種類の思考ツールによる思考の可視化を促す

など示唆に富んでいます。しかし、写真の輪郭や説明の文字が小さく分かりにくいものも散見され、ユニバーサルデザインの視点からは若干マイナス評価ということになりました。

帝国書院も適切に歴史的事情を配置し、生徒の学習活動も進めやすい工夫がなされていますが、全60ページにわたるコラムの内容等が中学生にとって難しいものが多く、本文との差異が感じられるものがございました。

日本文教出版は他の2社と同様に、教科書としてのバランスのよさに加え、3社の中で掲載しているコラム数、写真数、思考判断を求める課題数が最多であって、生徒にとって見やすく考えやすいものでした。

また、毎時間の学習課題は、どのようにだけではなく、なぜを問うものもあり、深い思考を促す工夫がされておりました。

これらのことから総合的に判断し、歴史的分野については、今年度から使用している日本文教出版が適当であるという結果となりました。

以上でございます。

教育長

報告ありがとうございました。

社会科の歴史的分野については、公正という観点から第二採択地区では、もう一度、自由社も含めて調査をするということで、時間はかかりましたが、大変丁寧な調査報告をしていただきました。

課長、協議会の中では、ほかにどんな意見が出ていたか聞かせていただけますか。

課長

はい。自由社の教科書の内容につきまして、女性蔑視とも取れる表現があることや、部落問題についての記述、またある1つの価値観へ誘導しようとする主観的な表現などに関して、この第二採択地区独自に人権を大切にしていこうという観点に照らした時に、「評価がBとなっているが、Cとすべきではないのか」、また「C評価をつけることに躊躇してはならないのではないのか」といったご意見が出されておりました。

さらに、本市の委員から、湖南省の結論としても、自由社の教科書については非常に偏った見方や観点から書かれた教科書であって、今までの結論である採択された教科書を超えるものではないことや、主要な著者が筆頭に来ておられ、その方の観点で書かれているので主観的な文章表現になってもしょうがないという流れで、著者、執筆者の調査といったものが大事になってくるのではないかと、ご意見を述べていただきました。

教育長

委員の皆様から何かご質問やご意見はございませんでしょうか。

委員

ご苦労さまでした。妥当な結論になったなというふうに思っています。

委員もきちんと厳しい意見を言っていたでいて、湖南省の考えていたことが伝わったのではないかと思います。

ただ、一つ気になるのは、これ、去年の調査委員とはメンバーが変わっているのでしょうか。

課長

お答えいたします。調査委員につきましては、実は調査委員長をしていたでいていた方はもうご退職されておられましたので、今年度、新しい調査委員長を選ばせていただきました。あとの調査委員の方につきましては、昨年度、この歴史の教科書を選定する調査委員の方、そのままの方でいていただいでいます。

委員

大体分かりました。そうかなとでいていました。

実は、前もって目を通していたのですが、書かれていますことが前の調査結果とほとんど変わっていないのです。ですから、これは済んだこととして、それにプラス自由社を入れて考えた時に、どういう選択をすればいいかというスタンスで調査委員会は調査をされて、結論として前に選ばれた日本文教出版と自由社を比較すればよいと、そういう結論で話が進んでいったような気がします。

ですので、教科書の読み方に多少ずさんさがあって、例えば育鵬社の教科書に対して前と同じことが書かれていますのですが、育鵬社を細かく読んでいくと、やはりたくさん問題点があります。その点に関して、むしろポジティブに評価してしまっ、育鵬社の教科書のはらんでいる問題点に対する意識がちょっと薄いのではないかとでいてのがあって、調査の際に、そういうことも含めて、今度はもう少し厳密な調査をしていく必要があるとでいていうふうでいて考えました。

教育長

ご意見ありがとうございます。委員、どうぞ。

委員

当日、参加させてもらった際に、私もその点が気になって質問いたしました。委員長が代わられると委員長のリーダーシップで結論が変わることもあるかもしれないので、その点はどうかとでいていうことをお尋ねしましたら、ほかの委員さんは同じなので大きく結論がほかの教科書については変わることがなかったとでいていうことでした。

ただ、1から全ての教科書をもう一度調査したとでいていうことはおっしやっ、ていました。

その上での結論だというふうにお答えいただきました。

教育長

ほかいかがでいてしょうか。よろしいでいてしょうか。

それでは、選定に移ります。令和4年度使用教科用図書中学校社会科歴史分野につきましては、報告のありましたとおり、今年度から使用している日本文教出版の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

各委員

－ 全員異議なし －

教育長

他に何かありますか。ないようですので、審議結果につきましては異議なしと認め、議案第32号につきまして審議結果を可決することによろしいでしょうか。

各委員

－ 全員異議なし －

教育長

異議なしと認め、議案第32号の審議結果を可決いたします。
議案第32号、令和4年度使用教科用図書の採択については、以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

事務局

皆様、ありがとうございました。
続きまして、その他案件等ですが、臨時教育委員会でその他案件は特にありませんので、本日の第2回湖南省臨時教育委員会は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

閉会 午後1時38分